

対馬暖流は沖寄りと沿岸寄りの2ルートに分かれて北上
対馬暖流の流量は平年の1.8倍
今後沿岸水温は平年よりも高めで推移する模様

2020年9月下旬から10月上旬に実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

対馬暖流は、松前沖西方の東経139～140度の海域を北上し、その後岩内湾に形成されている暖水渦を迂回し、積丹半島以北では沖合域と沿岸域の2つのルートを取り流れています（図1c）。対馬暖流の全流量は約1.8Sv

（1Sv=10⁶m³/s）で、例年よりも約8割多くなっています（10月流量の平年値は1.0Sv）。例年10月は暖流の流量が減少する時期ですが、今年度は逆に8月から10月にかけて流量は増加しています。

50m深水温は、暖水渦が形成されている岩内湾、雄冬岬以北の沿岸域で20℃以上になっています（図1a）。50m深水温偏差は沿岸域の全ての海域で平年よりも高く、特に前述した岩内湾、雄冬岬以北では例年よりも8～10℃高い海域がみられます（図1b）。

余市前浜水温は9月下旬では「かなり高い」でしたが（※1）、10月の気温は平年よりも高めに推移する予報となっていますので（※2）、沿岸水温は今後も平年よりも高めで推移することが予想されます。

※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyau/suion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>



余市前浜水温



気象庁1ヶ月予報

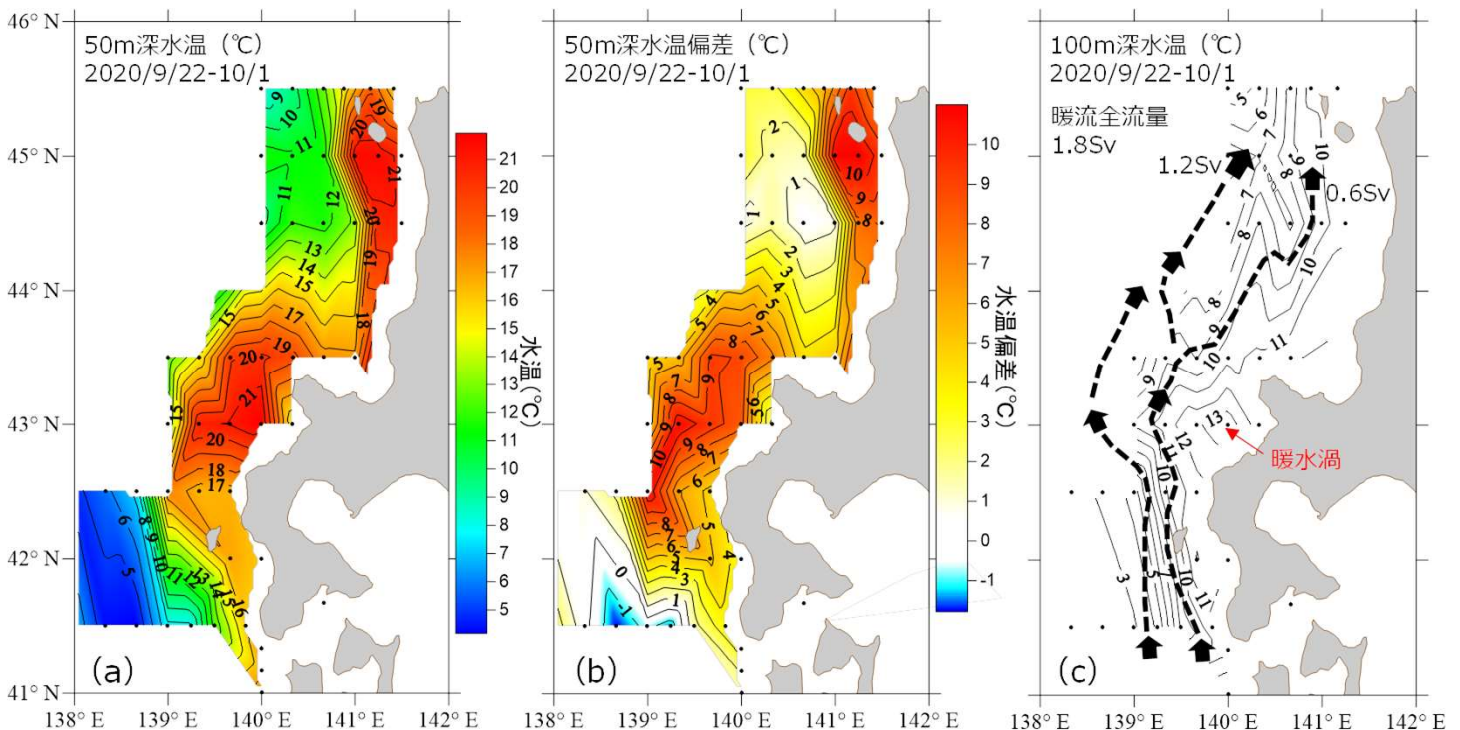


図1 2020年9月下旬から10月上旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10⁶m³/s）。